2025

**「シノドスをまえたたな」**

　パウロ

のに、のとしいのおびをしげます。のめ、に80をえるにあたり、ともにをいでいくことができるよう、のマリアのりぎによっておりいたします。

**をふりって**

、ではがされ、わり、、をとし、にりむことをでめました。のでおらせしたとおり、でについてかちい、それぞれにったをて、りんでいただけたらといます。3のりみの、2027をのとしたいとえています。

は、の3がされたでもありました。このに、のありについてもにったものにすべくをめ、のにたなにできるようをめています。これについてはまためておらせいたします。

**（シノドス）16**

　ながあった2024でしたが、カトリックにとってもなのつが、2021からわれてきたシノドス16のがにし、がされたことではないでしょうか。

にあってがともにむということについて、3かけて、の、、、ごとの、そして、からのによる、バチカンにおけるシノドスにおいて、（のみをりとのうちにること）がわれてきました。は、「“”がにげること」（27）ををむののからきるべく、をませてきたのです。2（、「」）をんでいて、くのについて、のそのものだとじました。にがし、でがするでのの、のなど、のくのでたようながあるとすることもできるでしょうし、のからがったが、のくのたをえるのとともにりげられたとすることもできるでしょう。

バチカンでシノドスにされたは、のインタビューので、のシノドスでは「シノドスなのをっている」のだとされています。シノドスがわっても、そののにともにむをっていくはずっとしていきます。

このでしている「」のは、のです。は「」のがてからこのようなをくべきだといます。しかし、202410にしたシノドスをけてしいをめるにあたり、ぜひこれからののひとつのとなるシノドスのりについてしでもく、またたとえでもとかちい、のとみをともにしてのをめていけたらとい、このをいています。「」にはわたしたちのをめるためのヒントがたくさんちりばめられています。がたらぜひにんでいただき、でかちっていただきたいといます。

**、な**

「」はシノダリティ―ともにむこと―のについてのようにえます。

「シノダリティとは、キリストがキリストとともに、のにかって、とともにむことです。をすシノダリティにあっては、のあらゆるのがまり、いに、、としてのをいます。……にえば、シノダリティとは、がキリストのをつすべてのとともにむために、よりでであることをにする、なとのです。」（28）

なるななのではなく、なであることがです。「」は「この（わりの）は、、すなわち、のとのと、をしてキリストにおいてされるのにおいて、そのとをつ。」（31）として、ともにむわりののなをしています。

**のために**

シノダリティのについて、「」はのようにべます。

「シノダリティはそれがなのではありません。 むしろ、キリストがによってにされたにするものです。」（32）

このとは、です。つまり、わたしたちがともにむのは、のがよりよくされるためというよりは、「にって、すべてのられたものにをべえなさい」マルコ16.15）というイエスのにってするためなのです。

「は、をけたすべてののです。とののめは、のをののにさせ、をさせることです」（66）。ひとりが、、、、など、それぞれのでのをきることをしてこそ、することができるのです。やができるは、そのです。

**と**

「」は、2021にめられたのシノドスのりをすでににすることができるとし、の4をげました。における、、ののかちい、における（7）。そして、のなレベルのにおいて、とというシノドスなをもってのみをけるようびかけています（9）。そのために、においても『シノドスハンドブック』でされている「における」をってかちいをい、をめていただけたらといます。

『シノドスハンドブック』：https://www.cbcj.catholic.jp/2024/08/06/30457/

のつののにもありますが、、、、、もも、のものも、でともにし、でともにをってんでいくために、いにをけ、いにびい、えられい、にりんでいきたいといます。

について、「」はすべてのがし、をうについてべたで、のようにしています。

「シノドスでしたことは、、、が、のののメンバーとのをむ、のにおけるをするけとなりました。……とをよりくけい、がされたにふさわしく、がにねられ、またねられなければならないかについて、よりをもってすることによって、それぞれのがよりにで、にダイナミックなでされることがになるのです。」（74）

　において、2000に7500いたは、2023で6600にりました。は36から30に、シスターは100から48になりました。っていないのはので、2000からにるまで、やをあわせて37です。に、はないですることになり、はのミサのためにのをることになっています。こうした、におけるとのがめられてきていますが、がないからなくをするのではなく、もも、もも、もも、もおさんではなく、すべてのにとって「わたしたちの」であり、「ともにする」であるために、にをめていけたらとっています。

**の**

つだけ、のにすることがらについてれておきたいといます。は、やといったごとにをし、をしてきましたが、においてはがにし、、どころか、をえてにし、さらにインターネットをじてになくわりをめています。「」は、こうしたにあって、「このような、なは、における『』のをえし、がそのによりよくできるよう、のありをすことをめています。『』には、・ながあることもしませんが、それをむしろをするでなとしてすることがです。」（114）とし、をととがい、わり、ともにむをするとしてづけ、にりむようしています。

11におらせしたとおり、、カトリックはをいます。ののテーマは「の」。わたしたちがともにむのを、へののうちにけていくことができるよう、また、わたしたちのとが、がえてくださるいのをにめるものとなるよう、こののりみをめてりましょう。のにのかなときがありますように。